

いきいき 行人

自身をも救った詩画で伝える
勇気や希望

野辺 修二さん（60歳・持田）

絵と詩を組み合わせた芸術作品「詩画」。「野辺大稀」というペンネームでこの詩画作りに取り組んでいるのが持田にお住まいの野辺修二さんです。

43歳のときに妻をがんで失った野辺さんは、自暴自棄になり3カ月ほど荒れた生活が続いたそうです。そんな野辺さんを救ったのは、詩を書くということ。悲しみを紛らわすため、昼夜を問わず思うままに詩を書くことで心がコントロールされ、生活も落ち着きを取り戻しました。その後、45歳で眼鏡店を開業すると、ギャラリーを設け、これまで書きつづけた詩に絵を書き加えた詩画を飾りました。「店に来た方が詩画を見て物思いにふける姿を見たり、時には褒められたりすることで創作意欲がわき、欲しい人にはほとんど作品をあげていました」心の浮き沈みを経験した野辺さんの作品が、不安や心配を持つ方の心のすき間を埋めたのか、次第に人生相談を受けることも多



くなり「元気を与えられる作品作りができていくのかな」と感じるようになりました。

51歳でうつ病やがんに侵され、精神的にも肉体的にも追い詰められた野辺さんですが、「今後の人生の目標は何」との知人からの問い掛けに、出た答えは詩画でした。「同じ苦しみ味わっている人たちが寂しい思いをしている一人暮らしのお年寄りなどに勇気と希望を与えたい」詩画作りを再開させた野辺さんは、これまでの悲しい思いや苦しい経験を生かした作品を手掛ける詩画作家としての活動を始めました。平成21年6月に自身初の作品展を熊谷市で開催。昨年2度開いた作品展にも多くの方が会場に足を運び、中には涙を流しながら鑑賞する人もいたとのこと。そして3月20日・21日には郷土博物館で「癒しの詩画集作品展」の開催も決定しました。「私がどんな人間で、どんな経験や思いをしてきたのかを、作品を通して知ってもらえたらうれしいです」と地元での作品展に今から胸をときめかせています。

「人にはそれぞれの物語があり、私の詩画は私の物語を描いているだけ。途上の身ですが、いずれは詩画集という形で本を出したいですね」と作品作りの考え方と目標を語った野辺さんは、「そのうち皆さん自身の物語を作るお手伝いとして、詩画教室なんてできたらいいな」とつぶやきながらにっこりとほほ笑んでいます。

私の作品

俳句

忍 伊藤 英子

枯葉散る古墳の道よ思索道

長野 内山 計江

平凡な暮しに感謝暦果つ

荒木 増田 時枝

何事ぞ鳴き声荒し寒鴉かんがらす

須加 須加かつ江

通り雨師走の埃流しゆくほこり

向町 佐藤 猶子

ひとり居の夜半の葛湯かつ噺りけり

向町 茂木 咲子

廃屋に病める主待つ梅一輪

忍 岡田 修

初鶏をどこか遠くに城下町

和田 島村 昌子

つくばいに薄氷張り鏡とす

持田 伊藤 洋子

ただ一輪ぞんか咲きて日の暮るる

城南 町田 達男

除夜の鐘一打に託す期待かな

荒木 蛭間しげ子

冬の空空見て話す亡夫つとむの顔

城南 橋本千枝子

なに事もなきかの如き年の暮

矢場 鈴木かつの

日輪にむかいて冬の道厳し

持田 丸山 麟一

友の顔思い浮かべる賀状かな

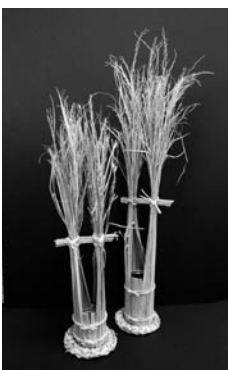
荒木 藤田 栄之

見返れば寒の月置く天守閣

(木島 斗川 監修)

『花瓶』(わら細工)

市川 晶夫(南河原)



◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日まではがき・封書
で広報広聴課へご応募ください。